地　場　産　業

小野市の地場産業は、江戸時代に農閑期の家内工業として始まり、加古川の水運を活かした大都市圏との取引により発達してきました。

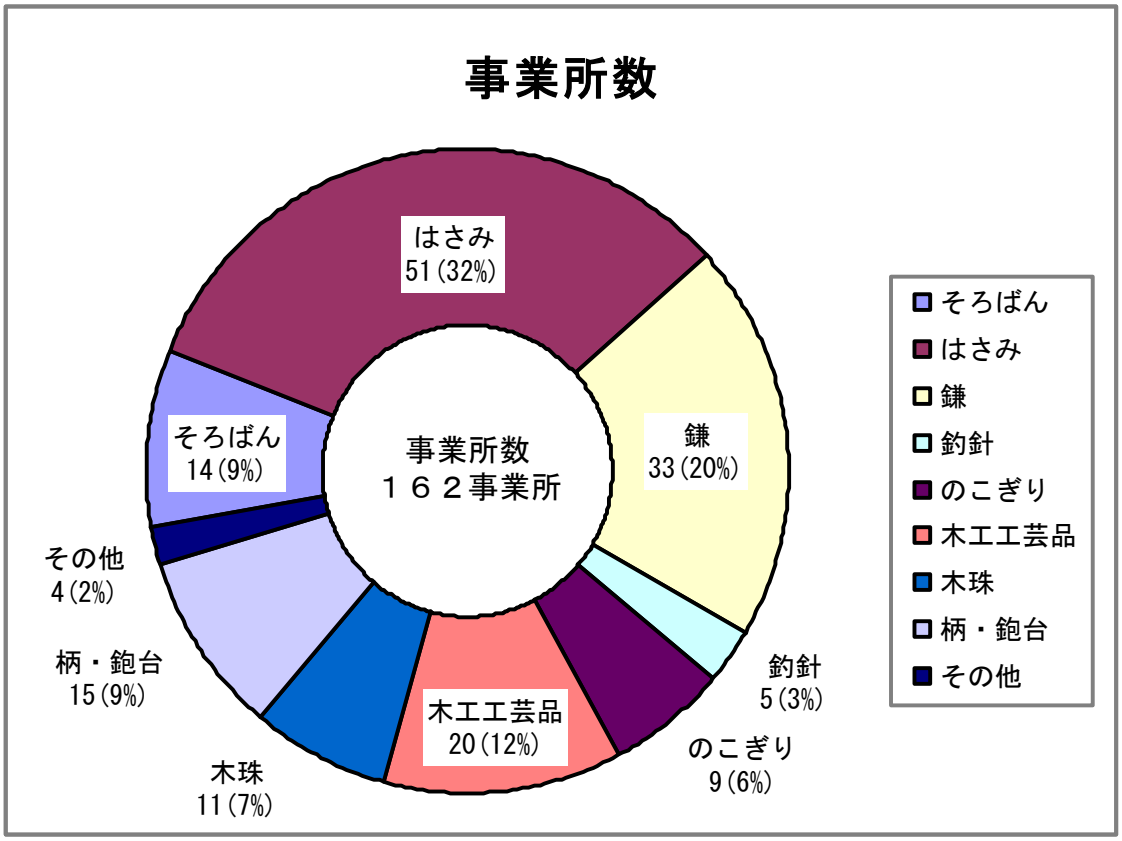
小野市を代表する地場産品の「播州そろばん」は、江戸時代に小野市内で製造が始まったと言われており、最盛期の昭和３５年には年間３６０万丁を製造していました。昭和５１年には、国の伝統的工芸品に指定され、繊細な技術を生かして組み立てられたそろばんは、その使いやすさ、滑らかな珠の運びに加え、磨き上げられた美しさが工芸品としての価値も備えています。

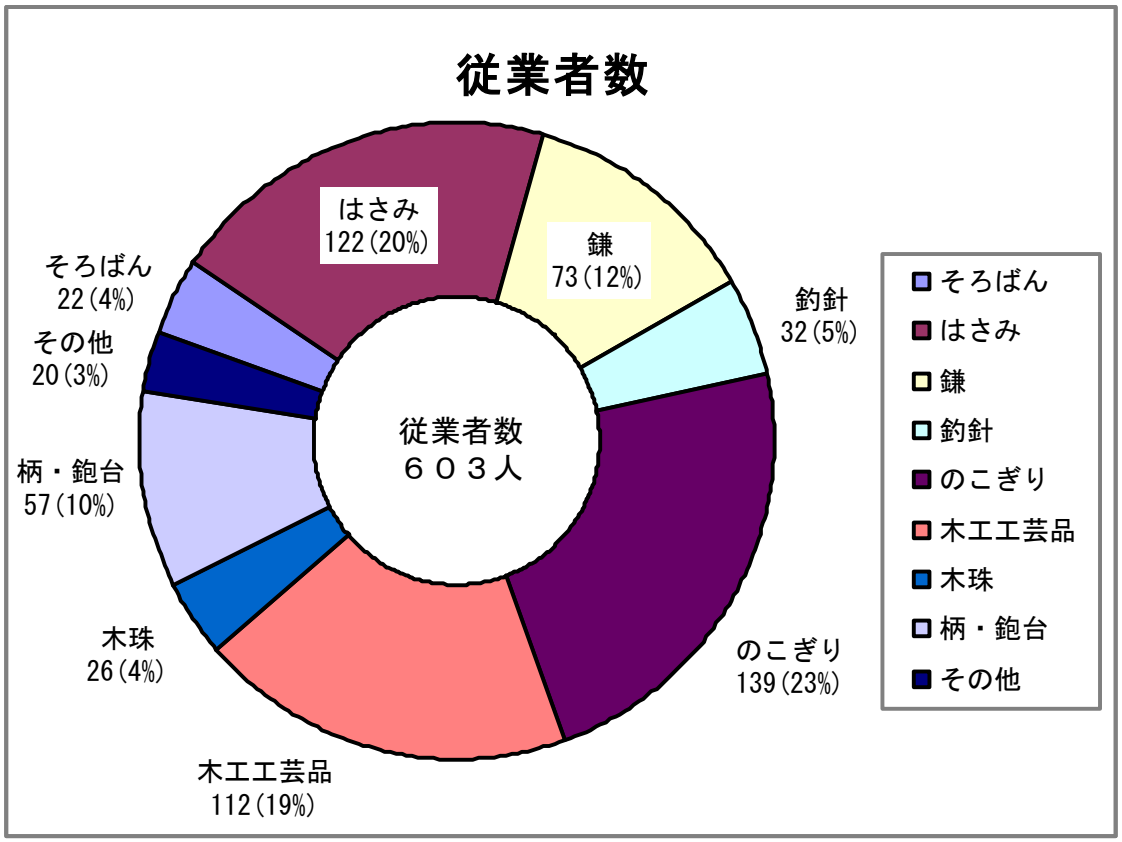
また、播州そろばんの珠を利用した「珠のれん」が昭和３０年代に開発されたのを契機に、昭和４５年頃からマガジンラック、珠鏡、花かご、額縁等の「木工工芸品」の製造が盛んになりました。

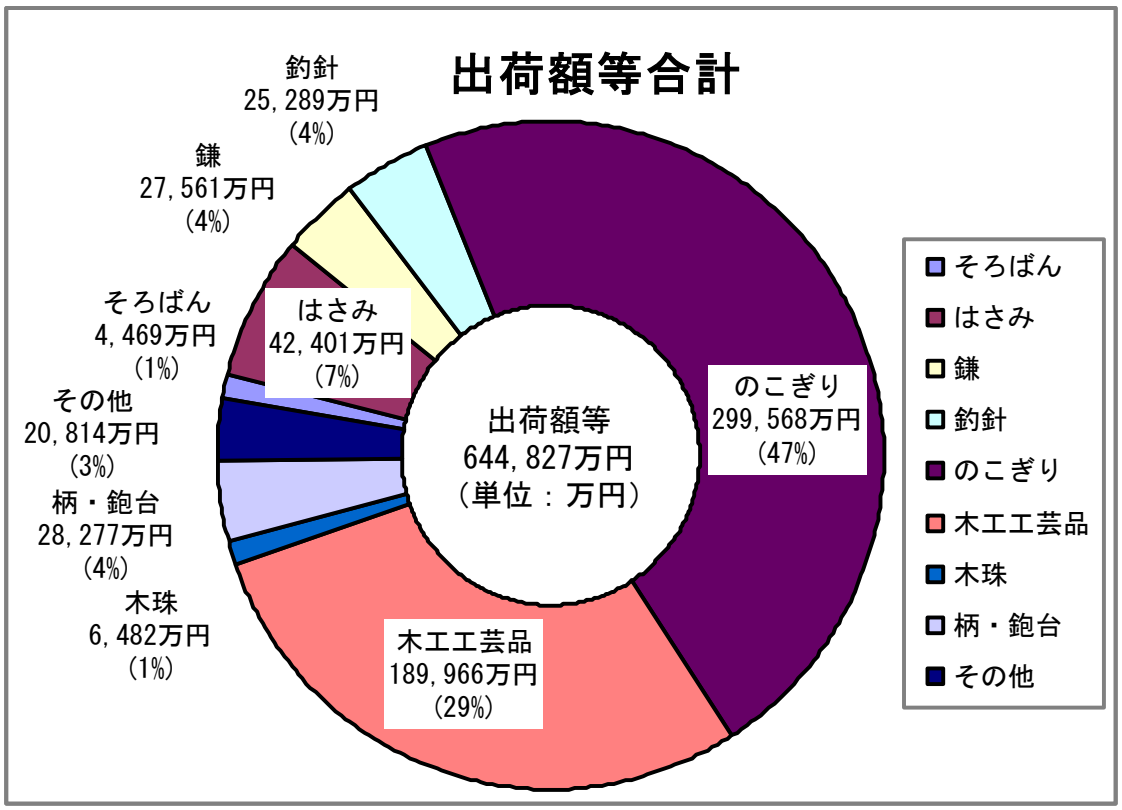
播州そろばんと並び、小野市の地場産品として有名な「家庭刃物」も、江戸時代からその技術が受け継がれています。延享年間（１７４４～４８年）に剃刀の製法が伝えられたのをきっかけに、文化年間（１８０４～１８年）には握鋏・包丁、明治４４年にはナイフ、昭和５年にはラシャ切鋏の製造が始まりました。特にラシャ切鋏は全国シェアの約８割を占めており、現在では、池坊剪定鋏、刈込鋏、理髪用鋏等、多種多様な鋏が製造されています。

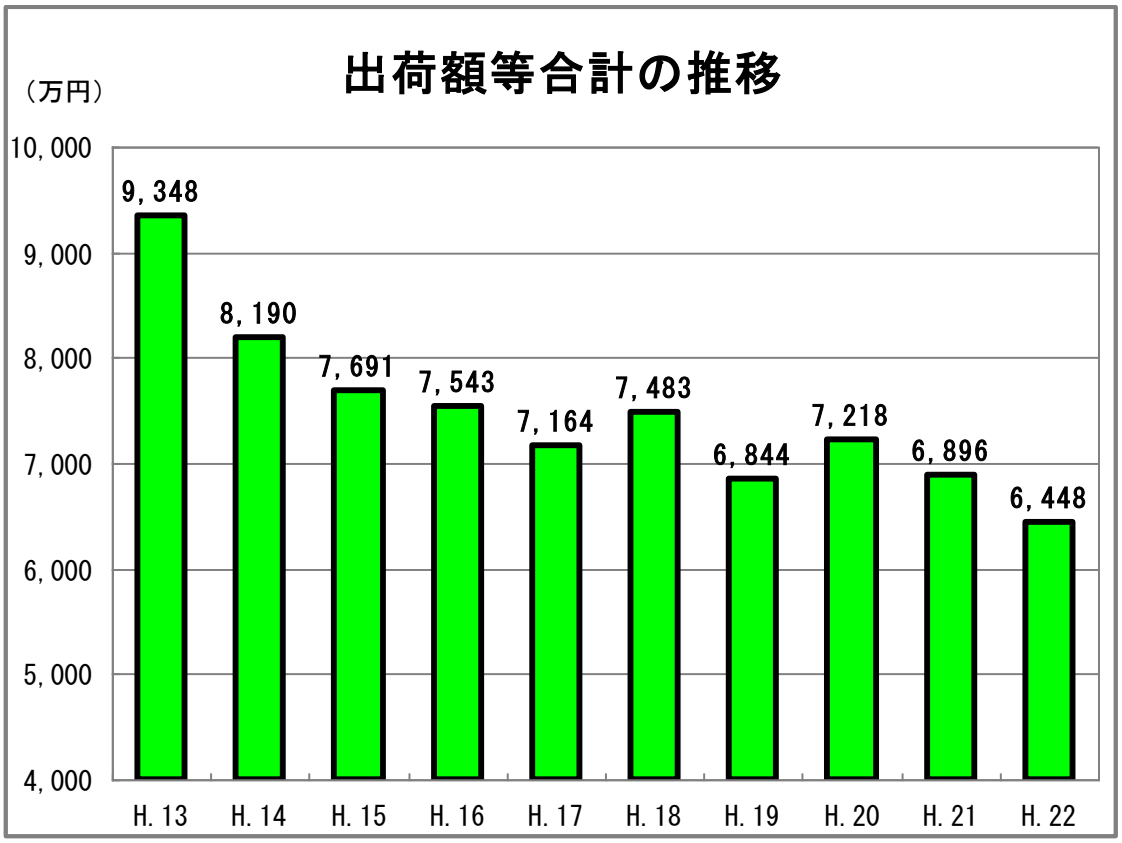
また、明治維新以後、旧一柳藩の刀鍛冶であった藤原伊助が剃刀の技術を鎌に応用して作った「播州鎌」は、その鋭い切れ味から「カミソリ鎌」の異名を持ち、鎌の全国シェアの約８割を占めています。播州鎌は、平成９年に兵庫県伝統的工芸品の指定も受けています。

これらの地場産業は、これまで、小野市の中心的な産業として、また都市イメージを形成する商品としての役割を果たしてまいりました。しかし、電卓やパソコンの普及、少子化等の影響でそろばんの需要は著しく減退し、消費者ニーズの変化や外国製品の台頭等により家庭刃物や鎌のマーケットも縮小の一途を辿っています。更に、原材料の高騰、後継者不足、職人の高齢化等、地場産業を取り巻く環境は非常に厳しく、将来的な展望が描けない事業所も少なくありません。今後、消費者ニーズに対応した新たな商品展開、企業同士の相互連携など外部の人材、知恵、技術が生きるネットワークの構築が求められています。


事業所数
事業所数
１６２事業所
はさみ
51(32%)
鎌
33(20%)
釣針
5(3%)
のこぎり
9(6%)
木工工芸品
20(12%)
木珠
11(7%)
柄・鉋台
15(9%)
その他
4(2%)
そろばん
14(9%)
そろばん
はさみ
鎌
釣針
のこぎり
木工工芸品
木珠
柄・鉋台
その他


従業者数
従業者数
６０３人
はさみ
122(20%)
鎌
73(12%)
釣針
32(5%)
のこぎり
139(23%)
木工工芸品
112(19%)
木珠
26(4%)
柄・鉋台
57(10%)
その他
20(3%)
そろばん
22(4%)
そろばん
はさみ
鎌
釣針
のこぎり
木工工芸品
木珠
柄・鉋台
その他


出荷額等合計
釣針
25,289万円
(4%)
鎌
27,561万円
(4%)
そろばん
4,469万円
(1%)
はさみ
42,401万円
(7%)
その他
20,814万円
(3%)
柄・鉋台
28,277万円
(4%)
木珠
6,482万円
(1%)
出荷額等
644,827万円
(単位：万円)
のこぎり
299,568万円
(47%)
木工工芸品
189,966万円
(29%)
そろばん
はさみ
鎌
釣針
のこぎり
木工工芸品
木珠
柄・鉋台
その他


出荷額等合計の推移
(万円)
10,000
9,000
8,000
7,000
6,000
5,000
4,000
9,348
8,190
7,691
7,543
7,164
7,483
6,844
7,218
6,896
6,448
H.13
H.14
H.15
H.16
H.17
H.18
H.19
H.20
H.21
H.22